

2017年3月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度をみると、極うずは平年より強かった。東シベリア～ベーリング海で月の前半を中心にブロッキング高気圧が発達し、シベリア～ベーリング海では帯状に広く正偏差となった。一方、中国～日本の東海上では負偏差となり、南北の双極子的な偏差パターンが明瞭だった。亜熱帯ジェット気流は日本付近～東海上で平年の位置の南寄りを流れた。シベリア高気圧はバイカル湖周辺で平年より強く、アリューシャン低気圧は平年の位置と比べて南西側で強かった。850 hPa 気温はシベリアで高温偏差、日本付近で低温偏差だった。500 hPa 高度が正偏差だったヨーロッパや米国西部でも高温偏差となった。帯状平均した東西風は、北半球で寒帯前線ジェット気流と亜熱帯ジェット気流の分流が明瞭だった。成層圏では極夜ジェット気流が平年より強かった。帯状平均した気温は、対流圏の熱帯域や北緯50度以北で概ね平年より高く、対流圏の全球平均で平年より高い状態が続いている。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、インドネシア付近～フィリピンの東海上、南太平洋東部～南米北部、南インド洋で活発、日付変更線付近～北太平洋東部、東部インド洋赤道域で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の前半はインド洋東部～インドネシア付近を東進し、後半は不明瞭となった。対流圏上層では、インド洋～太平洋西部で南北半球対の高気圧性循環偏差となり、特に太平洋西部では

明瞭となった。北アフリカ～東アジアでは亜熱帯ジェット気流に沿った波列パターンがみられた。対流圏下層では、インドネシア付近では低気圧性循環偏差、太平洋では高気圧性循環偏差が、それぞれ南北半球対でみられ、日付変更線の西側の赤道域では東風偏差が卓越した。海面気圧は太平洋熱帯域の広い範囲で正偏差となり、南方振動指数は+0.8だった。

世界の天候

2017年3月の世界の月平均気温偏差は+0.48°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、2番目に高い値となった。3月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.86°C/100年（速報値）である。

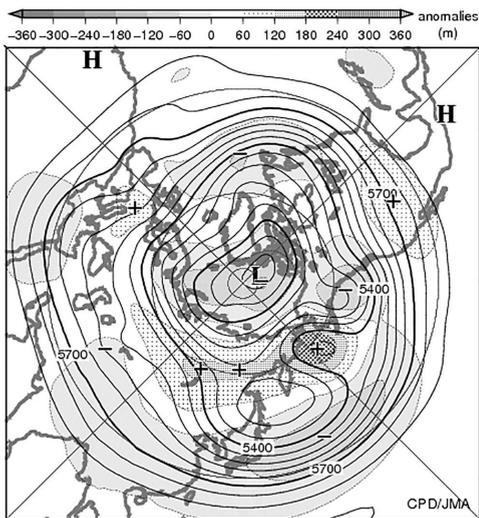
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- シベリア北部～ロシア北西部で異常高温となった。
 - 米国北西部及びその周辺で異常多雨となり、米国中部～メキシコ北西部で異常高温となった。
 - オーストラリア北部～南東部で異常高温となった。
- （気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

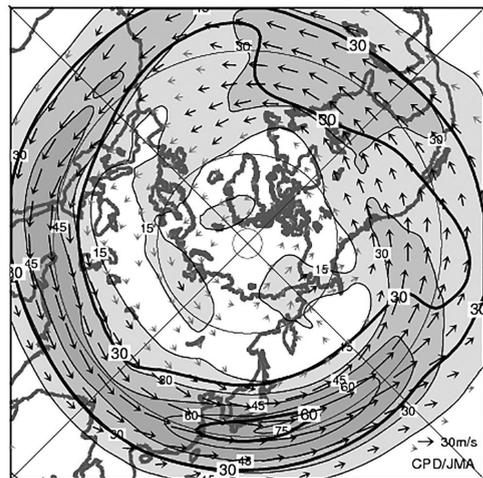
「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



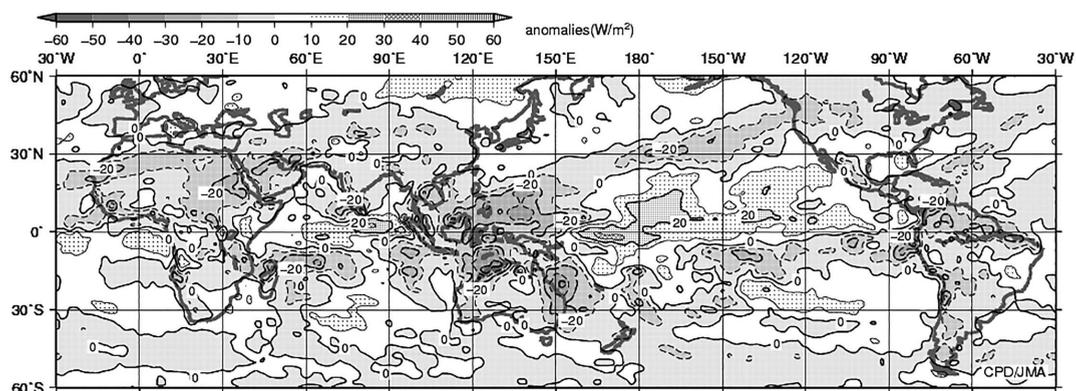
2017年3月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

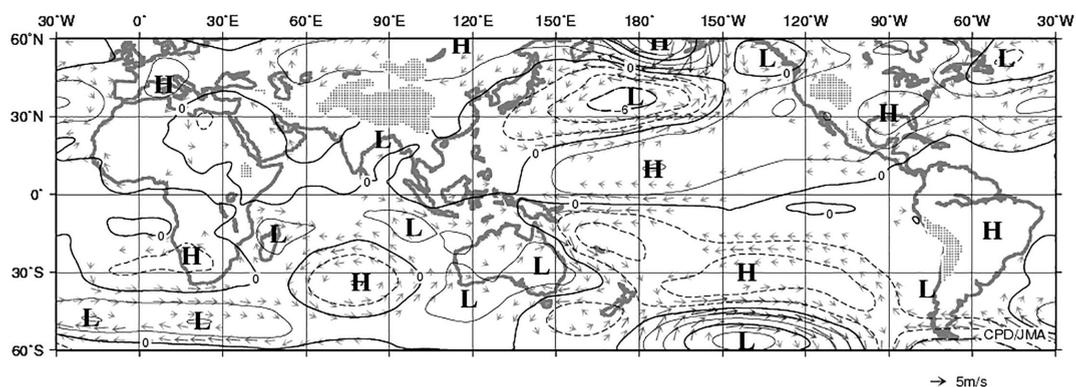


2017年3月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル

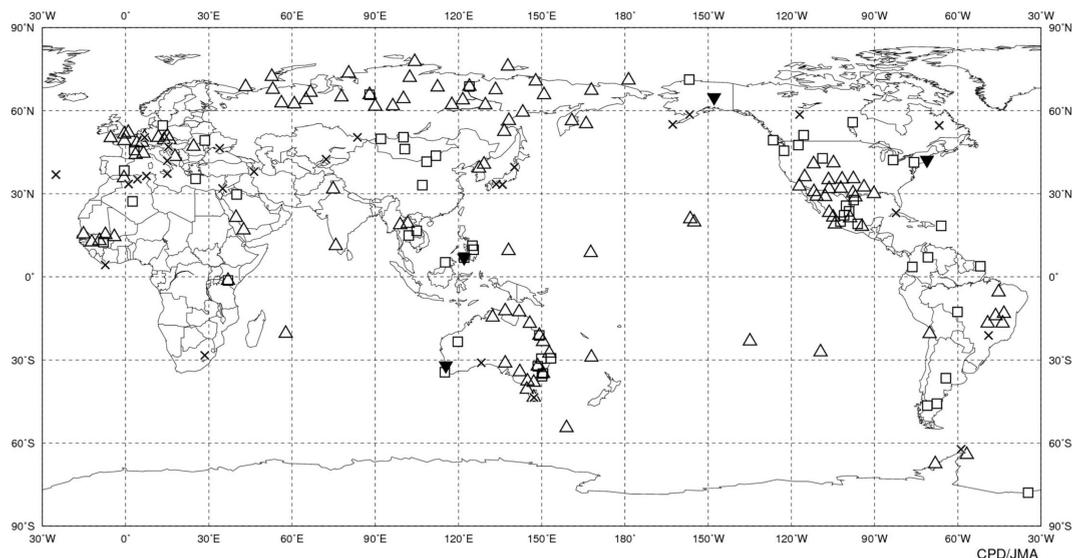
等値線間隔は15 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は30 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2017年3月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋
 大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。平年値は1981~2010年の平均値。



2017年3月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。平年値は1981~2010年の平均値。



2017年3月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。